



釋迦御一代記圖會

壹

~13  
4292  
1



113  
4292

山田意齋叟參考  
前北齋出老人繡像



# 釋尊御代記圖會

全部

六冊

## 書林

東都 稻田玉 山堂  
浪華 岡田群玉堂

人日  
野群

### 世尊一代國會序

山本彰氏  
1991.4  
寄贈

光哉世尊出世難哉苦行  
深哉佛法不知何教權實  
頓漸之法兼以度一世乎  
夫知愚各異其性無二經

云不生不滅不增不減故  
曰至道無難讀世書者見  
野亭北齋為何物徒多愚  
衲紹介何益之有  
天保十年冬十一月

紫野黃梅院前大德

大德四百卅五世大禪撰



地風

悉達太子之后妃  
耶偷陀羅女像



空

大恩教主  
釋迦牟尼如來法像





火

斛飯王之太子  
提婆達多之像



水

淨飯大王之后  
騎曇彌夫人之像

林辺圖繪卷

釋迦如來御一代圖會總目錄

卷之壹

師子頰王禪寶位太子

百國王朝迦昆羅城圖

淨飯王治世築四基

善覺臣二女入内

摩耶夫人懷妊

摩耶夫人感靈夢圖

憍曇彌夫人現蛇身圖

憍曇彌嫉妬招摩耶

儀伯無間呪祖摩耶夫人

摩耶夫人奇病并夢中說法

卷之貳

著閣診脉摩耶勸墮胎藥

老翁相摩耶說胎内皇子高德

相者們討論摩耶夫人容體圖

摩耶夫人夢裡聽十因說

藍昆尼園催花宴

悉達太子降誕現天地瑞異 同圖

摩耶夫人逝去

悉達太子入學阿私陀仙三十二相

悉達太子与提婆拈藝

悉達太子与諸童子捕射術圖

提婆与旃陀角觝圖

淨居佛一試悉達太子

提婆太子擊大象圖

淨居佛二試悉達太子

悉達太子娶耶愉陀羅女

悉達太子与達婆太子鬪馬術圖

卷之三

淨居佛三試悉達太子

淨居佛化比丘試太子圖

諸童子為太子語諸國地理圖

悉達太子暗知擅特法其室

悉達太子出宮中赴檀特山

耶愉陀羅女子太子悲歎留別圖

悉達太子赴檀特山圖

悉達太子託遺物車匿

迦毘羅城騷動車匿獻遺物

悉達太子於檀特山師阿羅々仙 同圖

悉達太子於般若臺師伽羅々仙

天女靈鬼告因位善惡應報

耶愉陀羅女生若宮

悉達太子苦行雪山降魔軍

悉達太子得四句偈正覺成道

靈鬼授悉達太子四句偈圖

三迦葉師釋尊  
釋尊宿迦葉石室圖  
三迦葉飯伏釋尊圖

卷之四

舍利弗目蓮歸釋尊法門  
聽世尊法助出罪囚獄中圖  
安陸說舍利弗佛偈圖  
世尊謁淨飯王若宮認如來  
世尊赴夕陽山圖  
阿難迦難優婆離耶偷陀羅女得道  
世尊於忉利天謁二世母君  
提婆寇世尊并卒都婆功德

世尊大神通懲魔軍圖  
提婆勸謀叛斛飯王  
世尊使難陀羅睺羅見三寶途  
世尊示二太子三寶途圖 其二  
世尊昇殿賜勅衣  
離婆多依無失罪囚獄中  
離婆多遭呵責圖  
難陀王即位并淨飯王崩御  
靈鷲山三迦葉大闢魔軍  
三迦葉与魔軍鬪神通圖  
魔種欲妨佛法却塞

卷之五



提婆婁曇忍諸國太子

欲冠世尊提婆墜活地獄 同圖

目蓮干活地獄救提婆圖

須達宿月蓋舍拜世尊

須達長者買祇陀園

滿地布黃金須達買祇陀園圖

掬神通舍利弗降六道師

舍利弗現大神通挫道師圖

卷之六

祇園精舍造立比丘首謁摩耶木佛

天童扶謁摩令造木佛圖

世尊說木佛功德

大愛道比丘尼泥洹

流離王屠殺伊沙衣耶國人民

流離王鑿伊沙衣耶國人民圖

流離王雷死天火燒宮殿

雷神罰流離王王臣圖

釋尊御一代說法大略

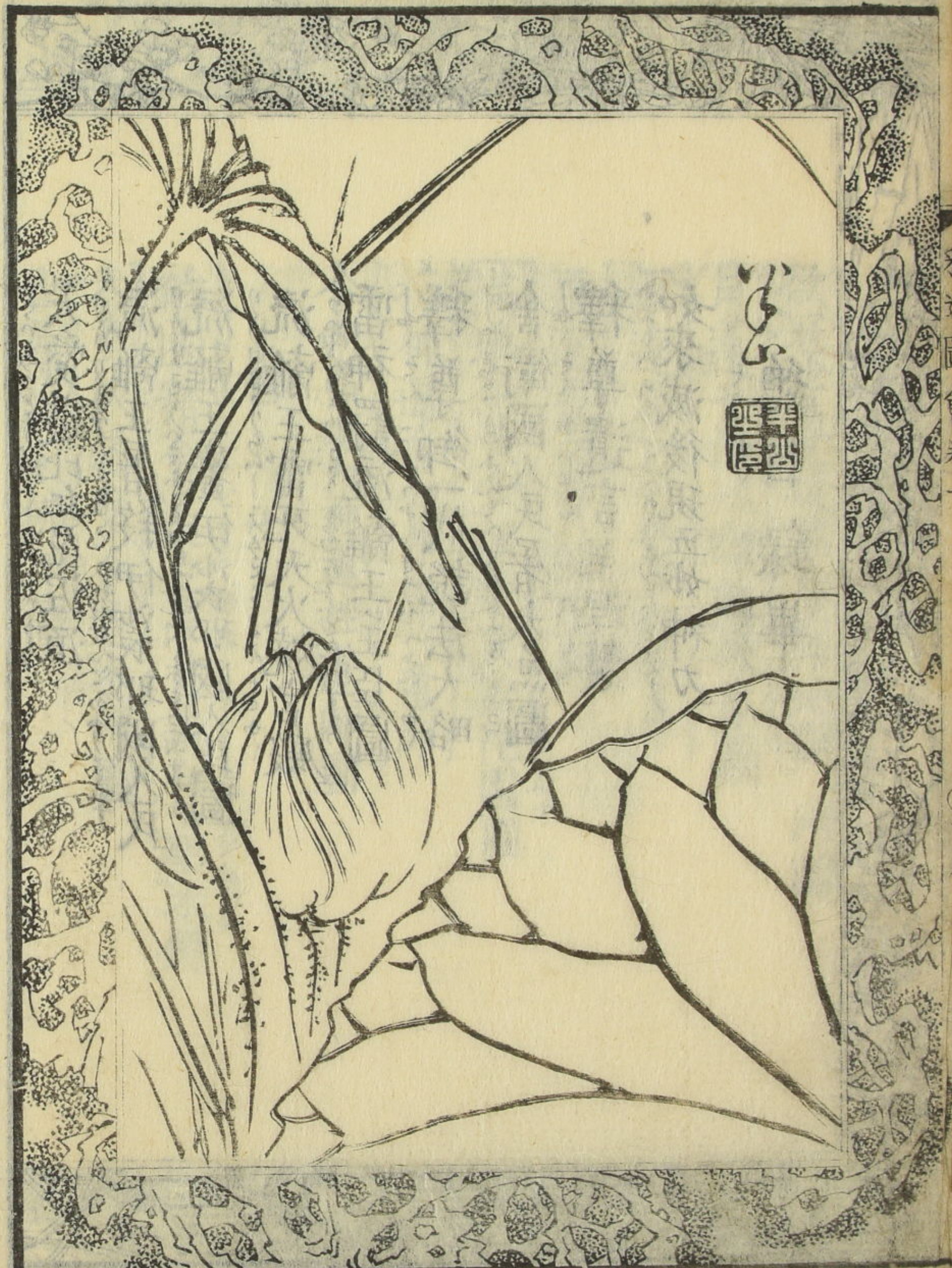
舍衛國人民屠大魚圖

釋尊遺言并涅槃

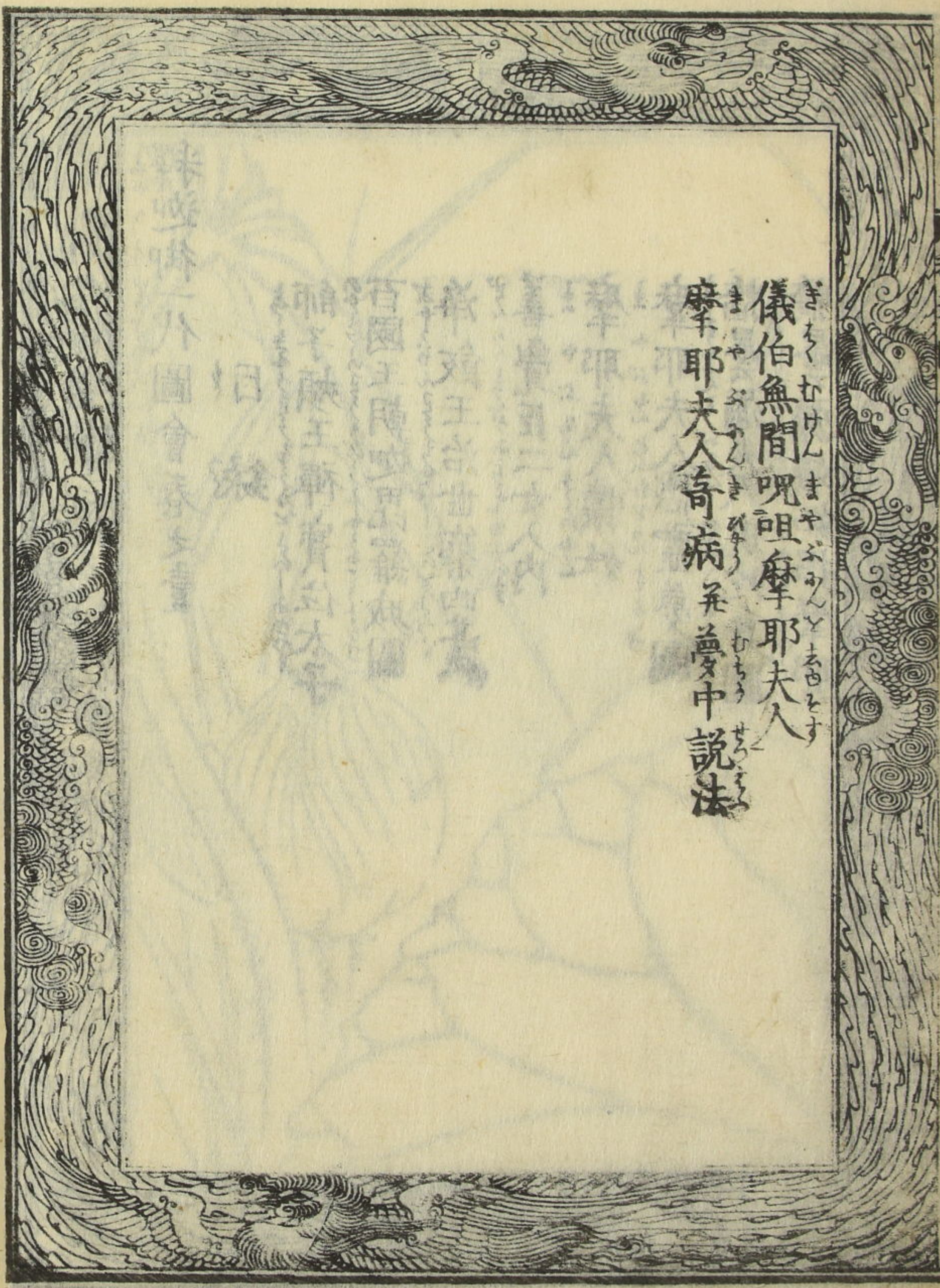
如來滅後現五妙神力

總目錄畢

釋迦御一代圖會卷之壹  
 師子頰王禪寶位太子  
 百國王朝迦毘羅城圖  
 淨飯王治世築四基  
 善覺臣二女入内  
 摩耶夫人懷妊  
 摩耶夫人感靈夢圖  
 憍曇彌夫人現蛇身圖  
 憍曇彌嫉妬招摩耶



儀伯魚間呪摩耶夫人  
摩耶夫人奇病在夢中說法



釋迦御一代圖會卷之三

師子頌王禪室位太子

浪華好荅堂野亭考選

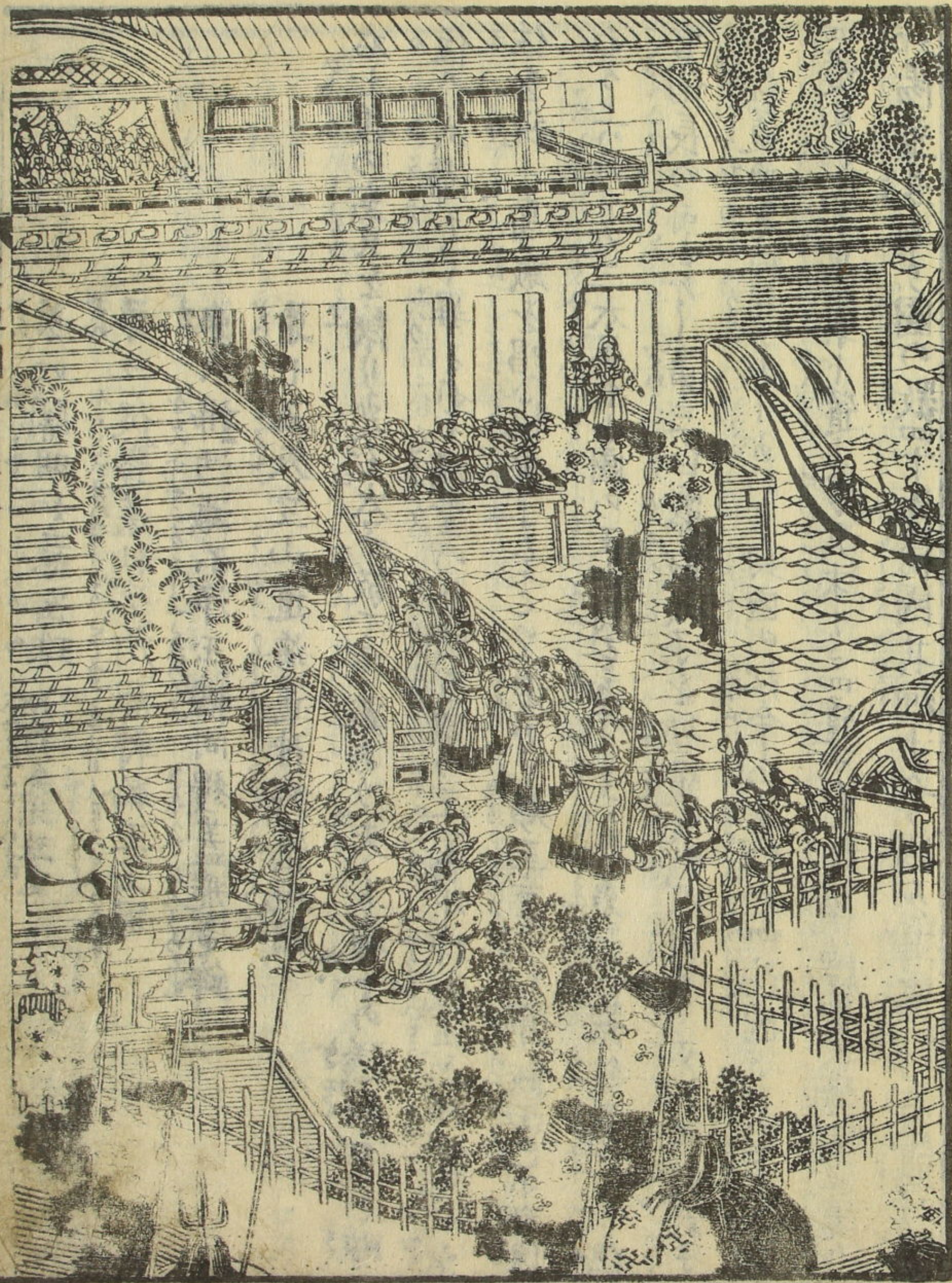
曾聞大思教主釋迦牟尼世尊一代乃經論ハ神妙寂通甚深微妙ハ子  
條萬端不可說不可思議の蘊奥豈庸愚の穴規る處ハ人ヤ和漢歷代ハ  
知識碩德萬億の書卷ハ淺狹ハ句を推音ハ考ハ譯解撰釋ハ書  
千々の倉票乃棟小元萬々の牛馬ハ汗ハ猶其分限を盡ハ更能ハ切  
了老ハ至ハ晝夜を捨ハ之を聞ハ何ハ其極ハ到ハ更を得ハ況ハ  
一帛上ハ如来の功德ハ萬ハをハ述ハ更能ハ魚雷婦女童蒙ハ為ハ其  
大略を緝ハ小切初の天地ハ小閑闢陰陽の氣凝結ハ三千大千世界ハ中  
小天竺月氏國ハ緝ハ其國五方ハ分テ東天竺西天竺中天竺南天竺北天竺也  
其中天竺の裡ハ摩耶陀國ハ帝を懿摩耶王ト号シ轉輪聖王の位を踐  
四天下ハ威を震ハハハ子孫連綿ハ續嗣ハ三十六代ハ及ハ大王ハ師



と称する此王の四人の皇子在り。第一浄飯太子、第二甘露飯太子、第三白露飯太子、第四斛飯太子、第五此四人乃皇子。皆賢者。余勝、此八荒從以麻耶丸五風十雨時を違ふ。万方安寧なり。然し師子頰王年齢已小。爾王の一日文武の百官を朝廷に召し。頰王紹て曰。朕祖宗乃讓を受て國政を聽く。五十年。卿等國忠を厲政を補佐し。四天下昌。平ふ。逆亂の瀾起る。故に朕官中不安。臥して無比の娛樂を極る。妻を得ず。然し已に傾老。起居心小任せ。朝政をせ。失忘する所多。恐れ。萬歳の政を過つ。妻あり。今因て王位を太子小讓り朕に山居。静老を親んと思ふ。卿們生々高儀して。四人の太子の裡。善乃位を踐る。其量を見定。帝位小即し。上と宣命ある。群臣紹命を奉り。あつと畏り。領掌し。三公の第一日光臣階を進出。奏す。紹命乃趣。死の芽出。此慮小臣愚案を問。小四人の皇子何も聰明。睿知。子後

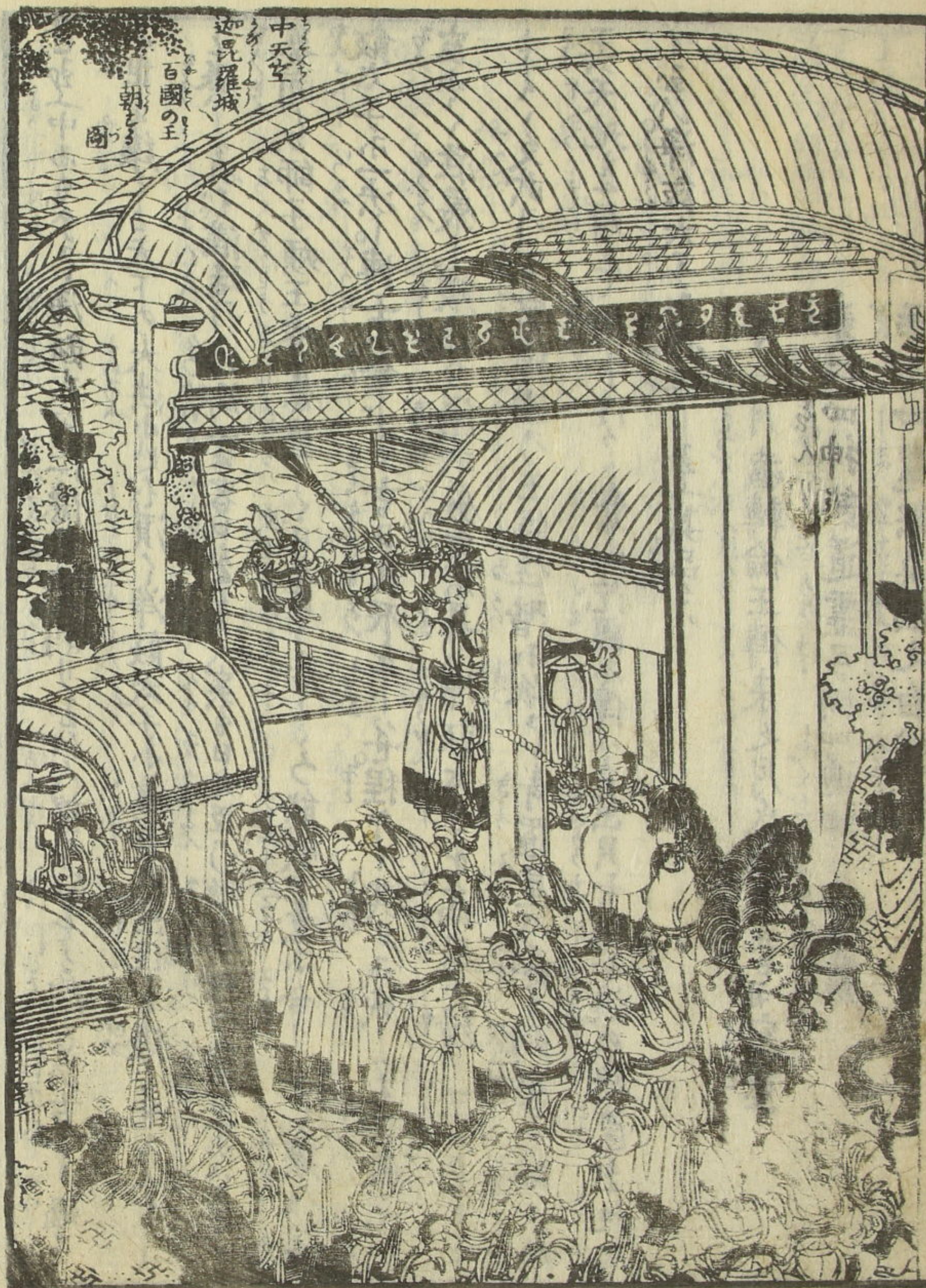
世の中。今の浄飯太子。仁徳天地。小則り。人の望の飯とする所。古より嫡子。小世を讓ると。天下の大法。小は。須く浄飯太子。小萬衆の密位を讓ら。せ。世と奏し。これを滿廷。乃月卿雲。客口をそ。実由日光臣。乃啓奏。理の當。然。小は。と。奏聞。し。師子頰王。睿慮。嚴。日光臣。が告。ところ。能。朕。が。意。小。合。り。と。讓。位。小。浄飯太子。小一決。博士。小命。古。日。良。辰。を。下。程。か。其。日。小。成。し。王。殿。を。七。室。小。く。莊。嚴。し。讓。位。乃。儀。式。嚴。重。小。具。浄飯太子。を。高。座。小。緒。三大臣。を。首。と。く。文武。の。百。官。諸。國。乃。王。侯。位。階。小。依。奇。羅。星。乃。如。く。列。座。と。師。子。頰。王。天。地。を。拜。し。御。手。小。は。摩。伽。陀。國。小。傳。る。密。貝。七。密。七。流。の。御。篋。を。執。出。し。以。浄飯太子。小授。与。し。其。品。々。ハ

- 第一 月藏轉倫王傳來之月氏國景普再密璽
- 第二 四神龍道靈弓同四通神力靈箭
- 第三 四魔能莫惱之白蓮劍



天竺國會卷一

三



中天竺  
迎瓦羅城  
百國之王  
朝

天竺國會卷一

三

第四闡明如意宝珠 所贈夜光珠也

第五從蓬萊仙宮所獻轉輪王玉冠

第六拂汚滅不淨玉幡同縵蓋飛竜鉞

第七五天竺山道海道陸野道地圖

右七種の宝具を譲り給ふ。太子敬で頂戴あり。夫より種々の儀則あり。即位乃式滞なく畢せられた。満堂乃公卿百國の王。一齊に淨飯王を拜賀して。宝位を祝。一萬歳を唱へ悦勇よむ。又者なり。頰王重く曰。淨飯王已お即位ある上。残りの三太子の王。小封をなす。先第二甘露飯太子とて。位官伯長の司となす。第三白露飯太子を聖道文武乃司とす。第四斛飯太子を白道無為の司となす。且封國の詔命ある。抑六伽陀國より四方の國を四道に分てり。東ハ東ノ道と号其末。南ハ南海道。東陽道。西陽道。北陽道。是なり。國の數四十五箇國。其裡十五ヶ國を甘露飯王。小賜ひ。旗

耶羅國を任國と定らる。南ハ南陽道。其末三道に分てり。昔陽道。白陽道。黃陽道。國の數三十五ヶ國。其裡昔陽道五ヶ國を白飯王。小賜ひ。尸羅摩國を任國と定らる。西ハ西徑道。其末二道に分てり。伯耆道。北陰道。國の數二十三ヶ國。其裡伯耆道三ヶ國を斛飯王。小賜ひ。伊婆耶國を任國と定らる。諸北ハ北陸道。其末二十四道に分てり。南延北。易微子とて。山海郊野。幾千里のり。涯をまわると。是を五郡七穢十箇七戸三滴一島と号せり。且さ。其れ三太子。中任爵封國有る。帝恩を厚く謝し。悦ぶ。妻斜なり。且。頰王ハ睿慮總ふ。其真宴を閑た。賑ハ。玉を緒人大の。悞樂を究め。醉を盡く。後退散せり。是より。頰王ハ仙洞。小秘任。玉を許。小老を。終。小室。筭八旬。小。登。霞。有る。八。尊。事。なり。淨飯王治世築四臺

事掌小納りし。群臣を朝廷に集て紹命あり。朕若年不徳乃身を以て天位を踐し。慙愧不堪。又大王の嚴命已吏を得。密祿を辱せし。卿們宜しく朕が不敏を補ふ。一点乃過失を練ち正し。政道邪曲なく。奢を省れ。儉を守り。萬民を安遠ならしめ。國豊み民榮。道廣く。四竟昌平。朕が願所なり。其人を眞実を以て。又。慈愍を以て。母を敬を以て。兄を以て。弟を以て。如是なれば。國中皆父母萬人皆兄弟。かり人の悪を忍び。是を練ち。人の善を忍び。俱に従ひ行ぜ。萬人一人の師。かり。人々萬人の師。卿們此旨を時々民間末々まで。觸知し。めよと宣ひ。され。三公九卿。月卿雲客。同音小あつと感。突難有倫言。か。各王命の趣を諸道の民へ觸渡。を萬民感涙を流し。王の徳を称せ。ハ。浄飯王。如是乃仁君。朝暮の政事正しく。一日も怠り。か。三光明。小照し。土肥國豊。小五穀年毎。小。登世の安靜。なる。吏た。か。万民鼓。

腹。樂。唱。這。王。の。聖。齡。千。歳。を。保。せ。む。と。願。ひ。多。然。小。三。公。の。人。月。光。臣。浄。飯。王。小。奏。く。曰。大。王。乃。仁。徳。海。内。小。普。く。國。土。年。々。小。肥。百。穀。能。豊。熟。し。猶。國。家。の。般。昌。を。思。む。都。城。の。裡。小。地。を。擇。み。四。萬。所。の。靈。臺。小。築。た。春。夏。秋。冬。其。折。々。小。あ。ろ。く。大。王。自。己。臺。小。登。り。以。て。民。の。耕。作。行。旅。の。往。返。を。覽。し。勤。勞。小。賞。し。怠。る。を。屬。し。下。民。怠。慢。を。業。を。勤。め。四。天。下。愈。靜。溢。小。治。り。の。平。と。泰。と。浄。飯。王。御。悦。喜。限。り。是。と。朕。が。慈。小。合。り。急。死。地。を。擇。み。臺。を。築。し。倫。言。あ。る。小。月。光。臣。領。掌。し。自。己。地。理。を。考。へ。百。工。を。聚。め。四。座。の。高。臺。を。管。造。し。む。小。百。姓。是。を。安。く。大。小。怡。以。我。大。王。治。國。の。為。小。靈。臺。を。築。し。報。恩。の。為。一。車。乃。土。礎。の。不。を。由。運。よ。と。我。く。と。寄。聚。者。我。萬。人。の。數。を。多。く。刀。屬。く。築。く。程。小。不。日。小。四。座。の。靈。臺。成。就。せ。く。月。光。臣。欣。勝。を。宮。殿。小。金。銀。珠。玉。と。鏤。水。日。明。の。簾。錦。繡。乃。帳。心。釘。也。及。近。磨。之。其。首。浄。飯。大。王。小。奏。く。小。帝。歡。喜。斜。乃。也。

新編國朝會要卷一  
五

猪臣下を従へ、靈臺へ幸臨あり。文道の博士を召筆道の堪儀を擇み、西  
座の臺の名を額面題させ、博士們深く助考し、先東の臺を青龍城と  
号し、春の眺望、備南の臺、波梨舎耶城と号し、夏の景を臨み、西、月景城  
と号し、秋望の臺と号し、北、並那離城と号し、冬の景色を望む、其臺と号し、  
リ、浄飯王、四季折々、小頃ひ、これの靈臺、小御幸あつて、農耕の艱苦、行旅  
の疲勞を睿覽し、以て愈朝政を平仁澤を絶む、夫、附て睿慮を  
慰む、ハ、春、遠山の霞融々として、微風、萬花香、送、御衣、杖、由、是、が、為、小  
白を、加、夏、ハ、玉階、雲、小、排、蟬、聲、雅、樂、を、奏、薰、風、龍、跡、の、汗、を、く、以、秋、ハ、皓、月  
錦帳を照し、瑟瑟たる涼風、梧桐を拂ふ、天津星、由、王、前、小、朝、と、疑、ハ、冬、と  
四郊、乃、雪、雲、端、小、晴、暁、日、乃、三、百、將、小、至、年、乃、豊、饒、を、奏、と、似、ハ、四、季、折、々、  
眺望、限、なく、面白、れ、を、萬、機、の、御、政、務、の、余、暇、ある、毎、小、諸、臣、と、俱、小、靈、其、室、小、御  
臺、を、促、ま、く、君、臣、樂、を、と、も、小、志、ハ、或、時、日、光、臣、冠、を、傾、け、奏、ハ、大、王

受禪して、廣く民、徳、沢、を、施、王、化、至、ね、隈、も、い、り、ハ、萬、民、業、を、樂、み、君  
を、思、へ、赤、子、の、又、母、を、慕、如、也、ハ、御、代、の、悠、久、か、く、人、妻、を、憂、ハ、樂、の、中  
小、薄、氷、を、踏、の、怕、絶、む、夫、天、あ、れ、地、あり、金、あ、れ、夜、あり、春、夏、漸、々、小、秋  
冬、沈、遅、く、草、木、の、花、咲、葉、結、ハ、皆、造、化、の、功、ハ、不、窮、の、道、なり、君、今、富、四  
天下、を、保、ち、貴、く、轉、輪、王、と、れ、を、御、望、く、可、さ、る、妻、す、ま、れ、れ、ハ、只、阙、ハ、  
所、后、妃、の、才、色、勝、る、夫、人、を、擇、み、宮、妃、を、備、御、代、を、副、ハ、六、子  
を、儲、む、と、奏、ハ、満、座、乃、緒、卿、大、感、歎、一、実、よ、く、も、サ、れ、者、多、維、久、此、旨  
成、存、せ、ざ、ら、ん、大、臣、乃、奏、聞、く、を、萬、代、不、易、乃、針、策、何、妻、此、上、の、以、る、ハ、仰、願、ハ、  
宮、妃、を、迎、せ、む、臣、下、及、び、萬、民、乃、心、を、安、く、ハ、異、口、同、音、ハ、奏、ハ、  
大、王、信、睿、聞、あり、群、卿、乃、奏、と、る、所、其、理、あり、と、ハ、朕、父、王、乃、位、を、受、継、で、  
未、だ、我、終、ハ、あ、ら、む、と、御、早、く、后、妃、を、迎、む、恐、く、ハ、色、小、若、乃、緝、を、唱、ら、れ、亂、國  
乃、端、然、中、曳、出、ま、ん、と、辞、を、日、光、臣、亦、練、て、日、陰、陽、和、合、天、地、の、定、理、男、女



夫婦八人向乃大倫なり大王御年若く在まとも后妃を迎へよ何乃憚りぬ  
と詞を盡しく練奏しつる浄飯王のさのみ争ひよむ此六卿們勸  
順を宣ふ日光臣より緒大臣歡喜踊躍し御世長久乃基何夷り此  
上のいざなを御妻が閑れ舞樂を奏して衆萬歳成を颯々時小月光大臣  
進み出く曰右より善道早く行ひ惡道早く退けしと縋り維つてあそ  
后妃小備をえ程乃才色全れ婦人あり早く啓奏有いと告ぐれを烈位む  
と同意し我れと冠を傾け后妃小具がれ佳人を心おとく書記三大臣の  
呈と其數凡一千五百余人とせよえなる

善覚臣二女入内

斯く群臣退出し緒臣下つれ達を所乃美婦人を承り口寄王の睿覽  
小具々々小其中小好容夫人芙蓉夫人とて歌女の中も特小勝し佳人を擇  
出しむ好容夫人ハ波梨舍耶城の住りも芙蓉夫人ハ並那離城の住りも

然ともいまい浄飯王の睿慮小稱ひむさうふやとて龍顔悪く入んむと  
然小或官人奏て曰緒大臣一千五百人乃官妃を擇ぶ敵とていものいぞ絶世  
の佳人をやとて臣皮西徑道の内仙乘國乃守官善覚大臣小二人の女あり  
姉を嶋曇彌と呼妹を摩耶と号すとも小無離の美人なり眉ハ翠羽の如  
く面ハ白玉に似る素雪の膚妙なり揚柙の腰和やふ是小増とて今とて  
其長高く是ハ減とて今すれ其長短く媽然とて一とび笑む飛鳥くさり  
嬌然とて二とび咲む海鱗浮む然とて天のやせる俊才あり歌舞吹彈の  
道ハくを更なり萬乃技藝小達せむとて更なり実ハ天上の菩薩乃如  
と傳史ハ大王とて后妃を需むんを早く勅使を仙乘國へ遣はし善  
覚臣二人の女を迎へむとて勸もりも浄飯王渠が鏡とてつる人  
ち恍惚とて酔るが如く睿慮大に動れ即時小三大臣を召し急いで善  
覚臣が二人の女を召上とせりと宣言ある日月光星光ハ三目御命と奉り

群臣乃中其奇才を詮議し。年若無双の智臣巴津那と云ふ者を勅使と  
す。仙乘國へ遣はし。巴津那王命を奉り。金銀珠玉を聘物と齎  
す。仙乘國の善覺臣が館舎に到る。此旨疾仙乘國へ告ぐ。倉卒の  
王命何事やと。善覺臣國人を觸れ。道路を清浄させ。自己官人を從て  
遠く迎接し。驛亭に餐食。善美を盡す。其後勅使を引く館舎に請  
敬で。宣旨を待。巴津那臣笏を正し。倫言乃昔他の子細あり。を淨飯大  
王萬乘乃宝位。即ちと云ふ。后宮小具を死佳人を得。朝庭の  
緒臣下是を憂ひ。普く天下を尋る。一千五百有余の佳人を召聚。善覺小  
備と云ふ。いま大王乃尊意。小稱夫人あり。此小貴卿の令愛姉妹。小  
絶世の風姿あり。且才藝不秀。小睿聞小達。急に入内せむ。王  
命なり。勅書并小聘物と云ふ。善覺臣勅使の詞を度。心中不  
歡喜。禮を厚く。勅答。是は小恐ある。倫言乃偏國の微臣。女大王の

宣旨小預し。旨電乃浮木を得。天日を拜し。如く。幸福何れ。是は小過。此  
は。あれ。恐る。容姿醜惡。勅止卑賤。小歡覽小備。小不足却。龍眼を  
汚もの。俾あれ。違勅の科。畏多。小宜。辭退の義を同奏。小告  
る。巴津那推返。嫌遜。小多。妻られ。姉妹乃女の。色色園生。小赤。紅葉  
の如く。更小世小隱。小を。睿慮。小茲。傾。小れ。王命。已。下。上。辭  
す。却。非礼。方。疾。小愛。小勅。命の趣を傳。入内。乃。準備。を。小強。小  
勸。小善覺。臣。の。固辭。を。小承。伏。其。旨。憍。曇。彌。摩。耶  
乃。兩。女。傳。高。妻。準備。乃。間。客。殿。小。於。勅。使。を。百。般。小。餐。食。應。小。管。侍。多  
斯。數。日。乃。後。入。内。乃。準備。細。小。憍。曇。彌。摩。耶。二人の女。を。十分。小。粧。ハ。世。七  
室。莊。嚴。乃。車。小。乘。小。數。百。人。乃。侍。女。童。女。小。傳。世。姉。憍。曇。彌。小。馬。將。軍。姉。摩  
耶。小。鳥。將。軍。小。智。勇。具。足。乃。臣。下。を。添。一。千。騎。乃。軍。馬。小。前。後。を。敬。言。固。を  
黃。道。士。日。を。撰。小。仙。乘。國。を。啓。行。小。加。陀。國。乃。都。加。毘。羅。城。小。と。云。を

カ使巴津那八是先多都城(回)善善覺臣王命を領掌一二人乃女  
を献る一奏聞一を浄飯大王睿慮嚴一巴津那功勞を賞一以官金  
城外遠く本二妃の乗車を迎下兼新小宮建一宮殿(清)敬言清の兵  
卒小數日與宴を賜一渡勞を休一其後多一全銀緋帛を以て  
本國(飯)一以一二人乃妃を睿覽ある一清淨殿小召昇一  
初二女を上覽ある一小百倍勝り一國色也。三十二相八十種好を兼具  
将小二莖の玉芙蓉隻咲一如何を捨死すなれ。浄飯王十分睿慮  
小輔ハ歡喜一也。吏斜一姉妹も宮中小面らるる一宜昔有  
姉橋曇彌八月小翁一景城小住一妹摩耶一花小象一音龍城住一  
也。是上り浄飯王南北一其(乃)御幸一稀一東西乃其(乃)交々御幸有  
愛幸一也。雙手の王乃如月景城小鸞與を促一也。日破利遮那城乃  
宮妃女官美次一音龍城小鳳駕を傳一也。夜八並那離城宮女侍官嬖一媚を

街ハ粧ハを凝一。龍駕を迎一。浄飯王二人乃后妃の睿慮一  
稱ハせ也。不就一也。又善覺大臣を賞一也。有坐る一也。小國乃王封一  
仙乘國を賜一也。善覺臣大不歡一也。深一也。帝恩を謝一也。漢土西洋乃  
珍王奇珠をもち一也。其余天下乃宝を集一也。七車小積飾一也。自身是守一也  
伽毘羅城(上)一也。奈内一也。龍顏を拜一也。封爵の天恩を謝一也。七車の宝を献一也  
也。浄飯王睿慮淺一也。大與宴を開一也。妓樂を奏一也。重一也。管侍一也  
也。小家の面目一也。世乃名譽一也。此上有る一也。見者聞者羨一也。ハハ。四  
天下乃人皆一也。花顔女一也。生入一也。妻を願一也。  
摩耶夫人懐妊  
夫天地物を妬一也。秋乃月明朗一也。人乃浮雲是を覆一也。曇世春乃花  
爛熳一也。風雨是を傷一也。散一也。唯月花乃一也。人向の上一也  
日れて此憂一也。善覺臣の女憍曇彌摩耶乃一也。兩夫人浄飯王

天加國會卷一

九



のうらひ濃かりきり俱に睡成催しむひきり忽せしむく虚空小音樂  
 まをれを摩耶夫人思ふと枕をりげ玉殿より香ふりきけんお空中小紫  
 雲琵琶鍵くさひれ其丈几十六丈紵なる金色の宝塔雲中不後尊より其周小  
 黄金乃幡八流七宝乃宝樹八本微妙無双乃英咲出より夫人奇異のみひと  
 か尊より又怪と思ひ瞬めせとひふ件乃英閑くといひく花の中  
 小無量乃佛出現。金剛合掌しむひ。微妙乃御声を設け異口同音し拜  
 戴尊嘉十方最勝佛無上竟哉光明無量尊衆生智願皆満足三身圓滿  
 皆成就と唱むひは。宝塔を礼しむむ不思議なる宝塔乃四面の扉自然  
 開れ其中小赫々たる大日輪おひきり其内小金鉢の御佛端座合掌しむ  
 ひ妙なる御声を設けむひ我得成道久遠劫平等衆生一子地智願満足  
 今現在到来結縁緒佛智と唱むむ何國よりもかく忽ち六牙乃白象  
 青蓮花を頂れ佛前にお出来る其時御佛宝塔を出蓮花の上へ移り座むひ

御額の白毫乃光明十方を照し其光摩耶夫人の頂小映しれを右如の  
 心神清く爽なる限り限なく不覺小隨喜の涙を流し恭敬礼拜し其時  
 佛后妃小對し曰何夫人予宿世の因縁深れ小なり今此所小来るは淨飯王  
 を又憑御身を母と頼り塵土小出生。魔縁を降伏し一切種智を成廣  
 く诸天衆を利せん欲を願く右妃須臾予小胎内を借しむを曰く夫人大い  
 小孩れむは是ハ恐ある御妻をか素り五障三毒乃罪深く不淨汚穢の婦女乃  
 身争り尊れ御佛を胎内小宿しむるなり此義怨しむる母と辭しむ佛重  
 く曰く否とよ夫人さのま辭むはと已小因位の時等衆國の都城緊那良城  
 主法裘王とす帝小一人乃皇女あり其名を瑠璃女と号し是小幼稚か母小  
 後夷鳩陀夫人より継母小事す至孝なり時夷鳩陀夫人より二人乃皇女を  
 産其名を光耶女と号しこれ姉瑠璃女其容色遙小勝しれを夷鳩陀夫人  
 常小是を疾妬如何も瑠璃女を追失む巧とよ母。至孝の皇女おれハ



其便を得て年月を送りてふ茲小東陽國の王妙莊嚴王瑠璃女の孝貞ありて  
且容兒の勝るより成歩迎て后妃小備人の高議ありて成夷鳩陀夫人早く  
傳へ日頃の好心弥増如何にして五所生の光耶女を妙莊嚴王の宮妃小備人の種を  
謀針をまきへ瑠璃女の科を殺け法衣王小鏡にまき父王繼母の魂を信じて遂に  
瑠璃女を等無國の北方の切陀羅山小捨て瑠璃女身小覺かた無実乃科ゆ其  
と云明き繼母の罪を頭を不孝とされ是非なく科小伏し実母乃遺物淨光  
菩薩の鏡を解脫血盆經を執持し切陀羅山小赴た嵐小任り血盆經十部を  
書写し一萬部を續編し自ら十種の真を摺り三箇の灯をくげ一心懈怠なく  
燈明光佛を祈念し其戒行乃功小依り今生花顔端嚴の身と産淨  
飯王乃愛幸成得て歡樂を極りて然るに經を書写せり功德深く  
六根清淨乃徳を具へ日月乃光を汚まじ六色の障あり身と成りて其時の燈明  
光佛是なりと結縁あり今御身の胎内を借をたれりとの辭し妙す勿き

と鏡の影乃と許小近寄む摩耶夫人を佛言をきり感涙を流しふ猶  
辭しとんと双手を合し思不思議なる夫人の掌の裡より廿八葉の青蓮花生  
出たり其時御佛白象の背を離れ夫人の掌中乃蓮花上小乗移らせむ以微妙の  
御声を發しむ我得成道今現在往來娑婆八千度為度衆生常說法已今  
當來諸佛智と唱をむ瑠璃の乳房をたれけ右乃脇より影の如く胎内  
に宿りむひたり夫人發た是はとも恐まやと我身を抱たえむ五昧六根清淨血盆  
中小白玉を裏か如胎内より明々金光明を輝し六根六識を照しむ夫人廓  
然と心明ふ三世の因位眼前小見る如く前生後生をえり前小佛の鏡を以  
て因位乃昔結り疑かた実事を悟り我かた不思議あり右の事  
と感歎し其時六種震動して洹河沙乃菩薩諸天各來現しむ以て戴乳  
佛母除難守護諸佛燈燄と唱をむ夫人を礼拜しむと后妃大に發た是六  
勿昧なりと恐をきり拜せんむと忽然と夢覺り此時淨飯王も眼を





心成鎮り色成正と曰御憤りの首理至極ふ去かろ。御自害ありんとして  
此ろばらむと摩耶夫人懐妊ありし未と皇太子と皇女とも定めたり。若御死去の  
後誕生乃皇太子皇女なりしと申成捨む。甲斐なりし人臣浅見よよ。摩耶  
夫人の出産成妨る不如何なる。已も臨月を過ても降誕なを必患病あり  
と。大王医官成召く薬召成調進させ人其虚も兼て遂に胎乃薬成用ひる  
なり。孕する所の皇子小の皇女成わぬ衆とわんとして何の疑ふを成。然して  
後君大王の睿慮を傾けむ。妹夫人乃電成奪ひかると何と難うん。行を盡し  
てと練りたる。鳴曇殊夫人馬將軍を練りてをさく眉を頻耳め。婦人成孕して  
半月を待て。出産せしと。妻尋常なり。然も如何なる術を以て。其道を塞く  
を成や。おろけの妻をなす。萬露頭なる時。犯罪の科免多かると。你妻成死  
を止ん。正成死産誕をり。妻勿と難せらる。小馬將軍元ると。深田の  
内ふの。在る。世上の妻成知るるを疑ひ。小馬理なり。茲小仙兼國乃良小宿陀山

とつ山の。其山の嶺。行ひる。神仙あり。名成阿闍部仙と。細り。曾と。舎衛國の  
王乃意小違。妻あり。勅罪せられ。然も。阿闍部仙の。二人の。徒弟。猶彼山  
栖。其名を儀伯仙無間仙と号。二人。師の。秘訣を傳へ。神通自在を得。風小兼  
雲小駕。奔獸を倒。飛鳥を逐。と。事掌の物を弄と。如。石を妻。て。金と。  
土成煉く。人。小。の。妓術あり。君彼。三人を召き。計巧を需む。摩耶夫人の。生  
産。成。妨。人。妻。難。く。ま。り。と。言。し。と。れ。鳴曇殊。大。小。歡。喜。あり。若。告。所。乃。如。人。  
妻。ま。り。何。成。夏。な。れ。急。二。入。の。神。仙。を。結。招。せ。し。と。命。せ。ら。る。小。馬。將。軍。領。掌。退  
く。腹。心。の。者。小。密。意。を。云。合。宿。陀。山。へ。遣。く。是。小。依。く。使。者。夜。を。日。小。經。く。仙。兼。國  
か。宿。陀。山。小。到。り。儀。伯。無。間。乃。二。道。師。小。謁。馬。將。軍。か。密。意。を。告。れ。と。二。道。師。一  
儀。中。及。む。と。承。伏。し。直。小。栖。を。起。く。使。者。と。俱。小。結。地。の。法。を。吟。く。不。日。小。大。伽。陀。國。月  
景。城。へ。と。來。著。と。馬。將。軍。大。小。悅。び。長。途。の。疲。を。勞。ひ。後。堂。小。結。し。種。々。及。食。應。て  
後。人。を。退。け。密。小。女。主。乃。馮。乃。音。趣。を。結。り。と。儀。伯。無。間。日。成。と。り。と。曰。是。等。寺。周。の

義不ひんを尊夫人小拜錫して其手段を言上しゆをとりて馬將軍二人を臺て橋  
 曇弥の御前出斯と通下れて夫人錦帳を出て二道師対面あり先きの珠玉  
 財帛を賜ひ借摩耶夫人の生産を妨げな術を需らる儀伯仙か曰倫言小叙りた  
 妓后の御唄争う違背しんを去りて我々仙術の中呪咀調伏の法ふ七壇の品の  
 就中妊娠の道を因塞する容易の更みりて其姓婦の面見を眼下小見と其安を  
 写生とり形代を造り是を土中埋む四箇の壇を築き秘法を行ひて終ふ出産の  
 道を塞ぐ年月を重ねて胎子降誕する更能くは襪袍の内成長して母子と日命  
 を亡くしゆく其れも其人を見れば法を行くと能く言上と憐曇弥は太り悦  
 ひひ妹摩耶を此宮中へ招き寄人といと安れ更なり然りて小頭小道師対面ありて  
 容兒を写しんとせ左右必と怪しく禍を生下り唯人志れを罪翠の内小潜居て其形  
 代を造りゆと命もを兩仙人むと承伏し其日御前を退れり憐曇弥は女官小余  
 一々墨筆をとり寄即時妹夫人を招寄るる消息をいと長々と約巧ふも緻し

く書きたる心利する女官を書使して青龍城へ遣りしる噫呼淺狭かまより由  
 親し骨内同胞乃姉妹も君寵を争ひて忽ち仇敵となりて毒計を用ふに至るこ  
 偏小嫉妬の悪念のなす所なり恐るるに慎むを斯く文使の女官青龍城に到りて  
 一の通り通下れ烏將軍肩が撃り是迄月景城當方より音物消息を早し  
 事或度より敷を知らぬ一度も回報あらず小俄小文を齎し越る春其意得は  
 と思ひも女王の姉君乃消息なれを去捨置人中なり使女が伴ひ摩耶夫人の御前  
 出斯と控達しる小夫人を夢や姉君の妬心を知らぬと御嬢姓を祝ひて御使と  
 聞かひ御悦み浅く御消息と二三度推戴か烏將軍を顧て曰是より或はや  
 烏將軍果来ん乃姉君小憐意ゆすまを如くはれも何余さる更あらんと思ひ  
 小果てくる御文賜りて悦の色りあられ頃々文并周旋積りて  
 小素り深く巧まる更なれ筆乃安中濃は是も敷度音信を口絶乃中  
 小裂んとする者ありて一度も安の達せし却り此方乃事を悪さる奏聞あり

かんと御身も妻を絶言する者有らば此頃其巧も妻願はれ其人を追はる侍りぬ  
うれしき方より度々進ず消息も彼曲者乃妨げぬ御許へ届くこと推  
量りぬ免れも角中も人々妬むる薄情ありと申敷れ其も風小雲を切く  
君の貴胤を孕むひし。妾が嬉しき物敷かると古國乃又母の歡喜推量り傾  
めも赤り悦び祝せむりし思ひぬも聊方患ゆるづの意かるとも文として更回進  
せんとの婦人の身八つ乃太吏と申す中もそれ心苦さを難産小有りと云をれ  
乃思煩ひ昼終日飯を甘ふと夜終夜不憂も結むとあり願ひの度此方来  
りむかへつらう顔を見胎孕りたまぬも足まわしえいも滅しやう小書はけ  
たれも夫人入りの嬉し涙を流しおの操返しはあなう鳥將軍小對公姉君の  
消息の又母の文も異なりを斯く情深く仰越ゆを忝るぬ不孝なりと云く姉  
君小逢なれむなうりも限かゝ急に参内し大王小奏問し勅免を多むる月  
景城(忝るぬ)準備せよと仰され鳥將軍承り仰さる妻小いへも御妊娠の御身

を公路上遠く月景城(赴れ)を御慎かれ候なり。橋曇孫夫人乃御患を疾  
とくして太吏と申す妻もいへも御快復あを人を待た此方(如)足しむこと  
遅くもすい唯其旨使女(仰)御幾駕の義思止まりかんと練れども教て  
許容なく否とよ妾胎孕たりと云ふ心乃を多くし太吏平日小勝りし然小姉  
君の命小背れ此方(結)も小姉妹乃礼小違り早く奏問を月景城(忝る  
ぬ)準備せよと曰ふ鳥將軍も主命再び背かて遂小領堂し参内し夫人乃  
願ひの旨を奏問しれは淨飯王眷聞あり左も右も夫人乃意小隨金し宣旨有  
見小依て鳥將軍退本て立回し勅許の旨回報する小夫人斜方と歡喜小ひ  
文使乃女官小數多の財帛を賜ひ先(回)され借月景城(乃)贈物小と推  
乃珍宝珠玉を三車小積載其身小芙蓉冠小頂丸繡衣を穿ち往裳を被彩鳳  
輦小乗る青龍城を出む傳官鳥將軍馬上下前驅し數百の婢女を五  
彩の車小乗る後從し其余乃輦小路上妓樂を奏し外吏八前後を敬言固つ

月景城を臨むとせざる名小中入る國王乃罷姫摩耶夫人乃行装たまは  
 其花慶たるとと輸人方なり是を人々遠近の貴賤老若路上小充滿  
 錐乃地をも残さずと野々々々更なるなり月景城小使女乃回報小依々  
 夫人針巧己小成り大り小恰小城外遠く官人を出々摩耶夫人乃駕を迎  
 内へ繕入らる摩耶乃御身の危れ更石炭抱く瀾小臨水を踏い水を洗  
 摩耶夫人乃危難を知む女官の教導小隨玉殿小入玉心橋曇弥之出  
 姉妹絶々々対面あふふと妹夫人八年来なり姉姉君乃顔を見玉心身を  
 平伏し礼をなり別々後々素情成述嬉涙ふれ玉心橋曇弥由偽々後泪  
 同胞ひ々々此都城へ召さるる起居を俱小せ玉心朝夕をいひは玉心  
 抑々消息さへ入乃為小隙妨られ々意慕心通今日来玉心顔を見る嬉  
 一々其志ささる置御身小れ君乃御覚め々々貴胤を玉心孕さふ  
 上一人り下萬民乃悦びささる古卿の父母も嬉々々々と推量られ妻が

心乃いささ察一玉疾むの泰り々賀然も迷まふ思かろ身乃方頼乃為  
 小妨られ心々々々黙止なれと一度見り胎妊乃す成中同進せ玉心安堵は  
 平素か々御身を勞々と八知かろ斯緒進せ玉心萬々々々慎々安  
 ら小皇子を産み見せ玉心巧言云々々々頃々珠玉乃不血盤をけりね  
 山海乃珍味を饌酒宴を催諸般の妓樂を奏させてと管侍を傳官  
 鳥將軍ハ橋曇弥乃心中其意得ると始々疑ひ思れを若鳩妻を用らる  
 巧も此心許さずと礼儀を名々々酒食も盡く先姉夫人小勸後  
 我女主小勸む其誠忠至り盡くといふ如何せん天眼通を得され橋曇弥  
 奸針酒肉の上小あを却々傍を小廉中儀伯無間乃二道士有々摩耶夫  
 人乃形見を未彩と造写し呪咀乃形代とせんと為を知り々々是れ  
 儀伯無間呪咀摩耶夫人  
 斯々數射乃游樂乃ひま小二個乃外道ハ思俣小后妃の容見を造り々々潜小

橋曇弥其首報しりやうくれば夫人おんな心裡こころ小悦こよろこび稍夜しやうや申まを聞きれ不な皿盤ひらたを収おさめ別べつ殿だん  
 小妹夫人おんなみづびみづび後のちの来き女おんな官くわんを寐みし其翌日あした亦また摩ま耶や夫人おんな小對面こたいめん斯しか御身ごみ  
 を敷日しきひ田たちまちまりりくくも君きみ乃なり眷けん慮りよも量りやうががをを且ま先ま音おん龍りゆう城じやう回わいりり再また以も迎むか  
 へへ妻つまももささ春はるりりとと更また問と進すすむむとと中ちゆうされされるるもも女おんな夫人おんなのの餘あま波なみのの津つ津つ  
 飯いひ王わう乃なり待まちびびおお久くままをを思おも召めすす再また會あひひをを約やくしし別べつをを告つぐぐ音おん龍りゆう城じやうへへ飯いひりりおおひひをを  
 其その後のちにに橋はし曇とみ弥や急いそぎぎ小こ兩りゆう道だう士しをを招まねれれ寄よりりおおやや兩りゆう人にん妹いへ夫ふ人にんのの形かたち容よう成じやう寫しやうしし取と  
 たりりややとと尋たず問とふふ小こ儀ぎ伯はく無む間かんととりり顔かほ小こ答こたへへるるハハ妙めう后ご々々のの意いをを考かうへへ更また更また勿な  
 き遊あそ樂び乃なり間ま小こ委あせせ寫しやうししととりりゆゆくく其その形かたち代しろをを出だししてて橋はし曇とみ弥や夫ふ人にん是こゝにに居ゐるる  
 小こ其その面おもて貌がたととささかからら其その人ひと小こ似にれれるるもも五ご躰たいハハ怪あやししくく忌いままのの氣きをを其その故ゆゑ奈な何いかんと  
 同おなじじのの兩りゆう道だう師し曰いはくく是こゝ道だう家かのの秘ひ法ぽう也なり面おもて頭がしらをを羊やぎ米こめをを月つき中のちゆうのの水みづをを取とりり洗あら更また七しち  
 度たび然しかとと後のち移うつりりとと是こゝをを造つくりり五ご躰たいハハ羊やぎ米こめ葉は少すくくく束たば水みづ火か木き金かね土つち五ご形かたち乃なり串くわ  
 中ちゆう接つぎ合あせせ青あお黄き赤せき白しろ黑くろ五ご色いろ乃なり縑きん中ちゆう是こゝをを捲ま頭がしら小こ笠かさ前まへををささせせいいたりり此こゝ形かたち

代しろ小こ百ひやく八十はちじゅう根ね乃なり釘くわいをを刺さすす土つち中ちゆう小こ理りのの秘ひ法ぽう乃なり供くわん物ぶつ燈とう香かう灰かい具ぐ丹に絨じやうをを凝こりり祈いのりすす  
 胎たい子し成じやう母ぼ親しんのの筋すぢ骨こつ小こ捆くわん者しや數かず年ねん成じやうぬぬるるもも出い生せいとともも更また能あたははずず遂いにに小こ母ぼ子し乃なり命いのち  
 成じやう断だん人にん事じ疑ぎけけいいとともも誇こほるる小こ云いふふとともも夫おんな人にん歡かん喜ぎ小こ勝かちとともも急いそぎぎにに調てう伏ふくのの  
 祈いのりをを如ごとくく命いのちせせるる兩りゆう道だう師し領りやう掌しやう地ち位いをを考かうへへ土つち中ちゆう成じやう掘くわとと七しち尺せき件けん乃なり形かたち  
 小こ百ひやく八十はちじゅう根ね乃なり釘くわいをを刺さすす是こゝ成じやう埋うめめ其その周しゆう小こ四し箇かん乃なり檀だんをを築まくく東とう方ほうをを息そ受う檀だんとと号ごう  
 西さい方ほうをを敬かう愛あい檀だんとと号ごう南なん方ほうをを増ぞう益い檀だんとと呼よぶぶ北きた方ほうをを調てう伏ふく檀だんとと云いふふ諸しよ祈いのり乃なり具ぐ小こ木き  
 瓜うり乃なり花はなをを華け髻げ曼まんとと号ごう白しろ蛇へび乃なり真ま膏かうをを写しや水みづ小こ港かう燈とう火か小こ蝦かま蟻あぎ乃なり油あぶらをを洒しや丸まる燒や香かう塗ぬ香かう  
 小こ八はち豺さい狼らう乃なり骨こつ成じやう燒や四し方ほう小こ三さん尺せき乃なり白しろ双しやうをを立たてて其その余あま種しゆ々々乃なり供くわん物ぶつをを供くわん下げ儀ぎ伯はく無む間かん乃なり西さい  
 入い髮はつをを乱らんしし跣はだか乃なり躑しん乃なり擗ひ無む明めい乃なり印いん種しゆ々々乃なり秘ひ訣けつをを尽つくすす肝かん膽たんをを碎くだれれてて行いくく乃なり  
 屠と肉にく乃なり法ぽう業ごう縛ばく般ぱん名な拊ふ無む明めい乃なり印いん種しゆ々々乃なり秘ひ訣けつをを尽つくすす肝かん膽たんをを碎くだれれてて行いくく乃なり  
 鬼おにもも是こゝをを小こ欲よく畏おそ色しき畏おそのの惡あく鬼おに邪じや神かみ萬ま氣き乃なり惡あく靈りやうをを護ごりり調てう伏ふく乃なり壇だん上じやう壇だん下げ震ふる  
 動うごくく護ご摩ま乃なり烟えん黑くろ雲うん乃なり如ごとくく上じやう乃なり恐おそししとともも躑しん乃なり儀ぎ伯はく無む間かん乃なり兩りゆう道だう士しハハ小こ

奇時を頭りて益國不兼息又擅小儀伯迎む敬愛擅小無間三増元擅小  
 無間向む細伏擅小儀伯互小周り廻りて黒汗を流して行ふ所小儀伯  
 大地鳴動し埋り形代生るが如く地中より現れ出さる若しけ小音れ息を吐宮中  
 現視る衝き入る身の毛も堅く恐れた宮中へ橋曇弥夫人兼てより呪咀の如終  
 を見せりて居むひまふ今細伏の形代已と現き出せたり女官小命にて罪罪を  
 まつと捲上させ柙眉を上り形代小向ひ如何や摩耶夫人你姉妹乃礼を知らた  
 大王種々面むむすも固く縁しよりく父母乃國へ飯るべれおさかくして色を銜ひ  
 媚を巧みしく君電を念負りて女小辱せん恨を今と思知はしと罵れれむ形  
 代も恨めけけるまをを發し主女まより姉君と榮利を争心あはれむ若う宜上日を  
 如何せん然ふまを皇子を胎妊すを執念深く妬し倭臣乃言以納り親一死回  
 胞成呪咀しむ恨しきよその因果を車乃輪の轉るるが如く思報御身小解せざる  
 うち早く心を善道小翻し道士を退けむとて其面見其音聲摩耶夫人露

違れも傳居る數多の宮女面成覆ひ身を背け戦慄せむとて者たりされむ  
 橋曇弥此へ怖とあふ思ひの言乃棄や姉妹乃縁も是限りやよ道師われ  
 小後我許の苦患かえ甘くと仰れ儀伯無間領掌壇上小湛る白蛇の膏  
 を採り形代小洒む不測や今ま生るが如くかえさ形代忽ち宮前の土偶となりて  
 地上小喘とけり二道士頓て是を曰のく埋む秘符ははけく再び出る要を得  
 らるる其後調伏の法悉く畢る祭の壇を毀ち供物余具を洪河小流  
 せし橋曇弥乃御前小出細伏成就乃音言上と夫人重く其功勞を賞し種々  
 小官侍まし上金銀緋帛若干賜ひたるふと兩道士大悦ひ深く思を謝し  
 り宮中へ退本馬將軍小辭別ま月景滅を去る小不思議なる事忽ち  
 大地自然と裂儀儀伯無間苦と叫と筆く地中へ投下るが地小白乃如く合して兩  
 道士小終小生方々奈落へ沈没しりる是ひく小佛菩薩の再誕あり皇  
 子成呪咀せ罪成緒天の罰しむふとて心ある人小身成慄とて恐る

摩耶奇病在夢中說法

偕も摩耶夫人を月景城より青龍城へ飯りしより久し見むとて婦夫人の面  
會しむの詠を緘し思食悦喜限たり將小秋風の雲を拂ひく明月の出  
が如く平日より心とぞ思ふ多し或夜忽し無量の悪鬼外道空中より降  
り来り千條の繩を以て摩耶夫人の五脉を締縛ふ其苦惱堪がず掃くを  
との手豆働むと叫んともふ声本はれは如何を身小かりの更也と恐ろ  
さ怨またりか強く一声ありと叫む心愕然とて月竟是二場り夢中身  
ハ錦帳の裡に則ち殘燈細々とて翡翠の風小よつた傳の女官、熟寐して俯  
臥し夫人胸撫下し偕も夢をりつと猶心を安んずるも胸乃真た猶止ま五  
脉骨肉疼痛、邪熱身成焼か如く神心悩亂しれと女官們を呼覚しおん薬  
湯飲しせき咽炎潤か今も程小夜漸々明も起出ん気力もかり  
唯錦の褥の上を衣を被り向ひて左右の女官、夫人の平素小異むと休小驚

急た鳥將軍ふ斯と告ぐは是も大は後れ即ち小宮中へ地奉り、后妃の枕頭より  
寄其容脉を問進し夫夫人の苦げかるを息の下小引入前夜り夢の更  
を結む鳥將軍練く曰く是も夢ハ心氣の疲勞より出る所よて姪ひ小足と察し  
小君皇子成胎妊せむひ起居の意を勞む其疲勞凝結し自然なる奇だ  
夢成中も金すもこれ人倫の胎孕ハ天賦なり月満をむ皇子安々脚降延有  
人更何の疑ひもな唯心強し思ひて云劍。医官は呂寄藥石を調劑を  
動もかかるとは夫人も鳥將軍の幻を突むと思ふ湯藥を服し神心を鎮む  
骨肉の疼痛隠々として猶止ま是も胎内の皇子時々動れむとて覺へ  
ひも悪夢の後ハ女も動れむとて心中空ふりて放しせし如く言語を  
發しむと唯よと結る心地よ朝夕の飲食の勸むを全夜深固ハ悟伏  
むふと鳥將軍夫妻大の心を痛む朝廷斯と啓奏しれと淨飯王大の春  
慮を發しむ即ち室登を回され青龍城へ幸臨しむ后妃の帳内小へ

其容姿を覽むるに、程は大小の憔悴し、身は愈々天意稔なり。懇小患  
 病を同懸め、公に勅して普く天下の名醫を召聚し、后妃乃為小所有良劑  
 を調へ、或は高德の道師婆羅門を招れ、病即消滅乃秘法を修せり。百  
 針を盡く、快復を嚮ふも、是を思効驗も、入るるに、淨飯王ハ、及  
 ち朝廷の群臣も、百國の小王も、后妃乃母、善覺王夫婦の、憂愁淺  
 と。民間あやのま、近もの、れ、患病平愈、公ひ自天子安を、誕生し、心小祈  
 ぬ者も、唯月景城の、情曇、跡の、暗、悦び、ひ、と、浅、様、斯、復過  
 秋、己、十月、月、満、今、皇、子、降、誕、あ、淨、飯、王、日、毎、小、青、龍  
 城、使、み、容、胎、を、向、を、ひ、脚、産、の、氣、を、其、月、中、空、暮、土、月、十、二、月  
 あり、其、妻、り、上、下、色、失、以、再、天、下、の、良、醫、を、尋、需、多、醫、療、年、を、盡、す、  
 せ、少、も、曾、其、驗、を、遂、其、年、も、暮、乃、春、乃、知、月、孫、生、日、之、も、  
 愈、脚、産、乃、更、な、れ、上、入、り、下、萬、民、乃、敷、大、を、増、況、や、摩、耶、夫、人、の

脚敷た、御腹の、脹、なり、増、の、早、十五、月、を、過、れ、臨、産、の、  
 たり、只、息、喘、心、苦、の、日、夜、添、今、居、起、意、不、任、せ、錦、帳  
 の、内、敷、沈、紅、涙、枕、を、持、ひ、余、の、苦、思、は、け、也、中、過  
 ける、年、の、春、の、夜、の、夢、妙、なる、佛、菩薩、の、示、現、を、蒙、り、天、魔、破、旬、の、障、碍  
 あり、斯、身、を、端、な、り、成、さ、る、世、小、難、有、夢、成、て、悦、び  
 君、小、告、又、女、を、あ、け、皇、子、の、産、を、出、也、千、年、始、心、地、て、待、多、の、を、豈、思、ひ  
 たり、斯、行、年、月、成、重、て、降、誕、な、り、姉、君、の、悦、ひ、勇、ま、せ、ひ、早、變  
 かく、俱、小、耻、づ、り、朽、朽、も、思、も、若、由、城、の、妊、娠、も、あ、れ、斯、數、年、の、日、月、を、過、  
 ね、れ、如、何、か、る、鬼、畜、を、産、出、人、笑、小、か、ん、是、成、思、ひ、彼、を、想、小、生、く、整  
 小、の、愧、を、ん、王、緒、の、断、よ、難、面、命、よ、た、か、れ、身、と、敷、の、余、り、小  
 小、女、妻、え、く、ど、明、後、暮、小、を、羅、綾、の、伎、乾、回、方、錦、繡、の、衣、  
 由、色、の、行、小、ん、え、さ、む、ひ、や、或、夜、過、来、小、思、ひ、出、深、く、敷、小、脚



心倦疲おちて睡眠おひさしふか心ち胎内より大光明輝た異香薫トコト  
過はる年夢亦示現しむひ菩薩珊瑚の乳房を搔分胎内より出ゆトコト  
が忽然トコト三十二相を具足せし土の如く嬰兒となつて現れむひ微妙の御声  
成發トコト曰いふや母夫人は御身の苦悩の余り予が御腹に孕まざる天  
破旬の障碍ト疑ひし一更御理なき是逐ひの中の途なり我亦も天上の樂境  
を舍て人間界に生れ死するも一切衆生の頑愚を憐れ生老病死の大苦悩を救ひ  
正覺をとく吾人為の大願なり何を惡魔外道の所為か多分同の嗔恚俱  
却の善根を焼捨ゆし更勿れ人界三箇の福あり生類萬億の中人倫と  
生るは是一箇の福なり人倫の中於ても萬の道理を知身となるは三箇の福  
なり萬の道理を知中於ても能其深理を知至る身となるは三箇の福なり  
是を人倫の三生と謂り此他世界も十定の掟あり親くはせなむ人  
其身尊而勿捨賤  
其身智而勿捨愚

其身修道勿殺惡人  
其身盛而勿捨義  
其身穢而勿捨偽  
其身明而勿捨暗  
其身富而勿捨貧  
其身脩而勿捨不賜  
其身田而勿捨闕  
知因果縁勿恨他  
是十掟古れ世りの掟おと國土の十因も謂り此理を不知と肆かる人  
の心天人も捨る所なり柳御身と姉君憍曇弥と七百生か向の仇敵中或親  
なり子となり或姉となり妹となり或全臣となり或敵となり恨を成結トコト  
の心所おと其一端をいひ先年夢想小鏡一尊兼國の法婆王の後の后妃  
夷鳩陀夫人即ち今の憍曇彌夫人なり生れ變り今姉妹と生俱ふ此都城お苗  
れ浄飯王の愛幸を受る身となれも御身過去の戒行いふお因と王の電  
愛深く姉妃因位の惡報お因と王の電愛薄し是故お平素お嫉妬の惡念  
絶て白子臙姓と申えしなり嗔恚の劫火愈熾おたり其身八月景殿裡お

在なる一念の妬心十六丈の悪蛇となりて虚空の裡に翻満し天地の悪鬼を  
 招き日月の光を覆ふ其上儀伯無間と云ふの道師を招き言然巧みして御  
 身成月景城へ迎へ簾中彼道師を隠し置御身乃形代を写し造りて是呪  
 咀調伏の如く出産の道に塞ぎ根本なり其呪咀の法と縋む造り形代を  
 土中埋め緒の冥道無数の邪神を驚し天血忘地血忘の邪法を以て人倫  
 出世の門を七重に塞ぎ内縛外縛業縛の秘法を以て又母より受る三百六十  
 余條の血脈を母夫人の四十の骨小擲著磐石無明の法を以て日月の光を覆  
 是成以て數年の月を重れし産出せし道なり然も予が神力自在を以て  
 降誕せんと安かれし中さあつて橋曇彌の妬心益熾ふなり嗔恚の劫火の為  
 小我と我身を燒亡し執著の悪念滅する期を生々世々御身小纏り恨を  
 有とありし御身中其障辱の爲小佛果を得ず更能まじ故小須更其纏伏  
 小色を出産の期を延と姉夫人の悪念を永く断り却て大道心の善女と

力も人方便かれし心苦くと今女阿とのひあつませ彼呪咀し二人の道師天神地祇  
 乃怒小觸已不生か地獄へ墮落し無量乃呵責を受て苦患女阿中止阿なり  
 然あれも菩薩の戒行小予小冠する者とも憎捨る更なり却て彼が愚昧小  
 しく已が罪已を責るも憐む更深し依り憍曇弥夫人今悪念消滅乃期を待て世  
 小出生し難行苦行乃功積成道正覺を得至來作佛乃時節小必と衆們  
 小呵責乃苦患を救ひ佛果小至む唯何更も因果の道理小悟り阿を維  
 攷う好し維なう悪むるは日朝小出く夕没し月小望小満く晦小尽春夏秋冬乃  
 四序易きくく押接り火乃熾かるも久く燃る更能を水乃溢るも皆阿小流  
 落るか小増て人間乃命の不定か更是ホリも猶甚しく花を折り日中  
 置かり或許阿を獲たこと得た此理を以て悟り無常を觀し母夫人  
 今金殿玉樓小傳れ錦繡羅綾小纏り小栄花小只是春の夜乃暮小ひり  
 終小樂ん怨生し阿浮の塵となり小入なり出で早く愛著の絆を断り小



今まの患病餘波に愈くいと健ふなりむの朝夕の飲食も動さぬ心もたれど  
むをむいぬるも善薩の誠を心守り夢裡の更にも成敢て口外にむはれ  
傳了女官も烏將軍夫婦も善薩の神カ乃を其所に居るも是唯是医  
療の功驗なりと思ひて各日來困り心を安んず王宮に此旨啓奏  
々々御飯王も不慮を安んずむの頃小音龍城臨幸あつて夫人も對顔  
むい患病平愈祝むに猶も保娘を加えし勅定ありて還御なりむに烏將  
軍夫妻も后妃の患病も上へ必定迫れし皇了降誕しむるも只此上へ  
平産なりむ久妻を天地に祈り今やくと日夜小待も敢て御産の氣ハ  
二年十月の日に重ねれむ若や御味姓もくハ方血病なる所為も疑  
人々心然をり

釋迦御一代圖會卷之一畢

